

レビー小体型認知症に対する当事者および家族への支援プロジェクト

本多 容子¹, 福岡 裕行², 信岡 研身³, 米澤 知恵¹, 阿部 宏史¹

¹ 藍野大学, ² オールハッピー訪問看護ステーション, ³ 藍野病院

報告概要 レビー小体型認知症に特化した当事者および家族の支援、専門職に対する学習機会の提供を目的とし、認知症カフェおよび当事者、家族、専門職を対象とした講演会を開催した。認知症カフェでは、「顔馴染み」の関係が構築され、ご家族同士で悩みを共有したり、情報交換したりする場面が多くみられ、講演会では、関心を持って聴いていただけた。また、講演会後の当事者および家族の交流会では、活発な意見交換や質疑が見られ、本プロジェクトの必要性を感じることができた。

1. はじめに

2008年に発足した家族会「レビー小体型認知症家族を支える会」の後継組織である「レビー小体型認知症サポートネット」が全国19カ所のエリアで活動されている。そのホームページでは、“介護家族だけでなく、DLB（レビー小体型認知症）患者ご本人、ケアスタッフの皆さん、医療関係者と病気やケアについて学び、支え合っていきたい、情報共有したい、そんな願いをもって取り組んでいく”との理念が掲げられている。

レビー小体型認知症は、近年患者数が増加傾向にある。しかしアルツハイマー型認知症と比べ、未だ情報は少なく、当事者および家族は情報不足や交流の場がないことに当惑することが多い。また既存の認知症家族会等に参加したものの、他の認知症とは症状が異なるため、疎外感を感じてしまうとの声も聞く。

このような背景から、レビー小体型認知症に特化し、当事者や家族が情報交換や交流をできる場、専門職が情報や知識を増やせる場の確保が必要とされていると感じ、本プロジェクトに取り組みたいと考えた。

2. プロジェクト目的（あるいは目標）

本プロジェクトは、レビー小体型認知症に特化した当事者および家族の支援を行うとともに、専門職に対する学習の機会を提供することを目的とする。

3. 実施内容

レビー小体型認知症に特化した認知症カフェ（以下、DLBカフェ）を8回開催した。また、レビー小体型認知症の当事者、家族、専門職を対象とした講演会を3回開催し、講演会後にはレビー小体型認知症の当事者および家族の交流会も開催した。

レビー小体型認知症カフェ、講演会およびレビー小体型認知症の当事者および家族の交流会の広報は、連携病院、地域包括支援センターを中心とした

関係機関へのチラシの配布、レビー小体型サポートネットワーク大阪メンバーを通じて、案内を希望される当事者および家族への郵送での周知、レビー小体型サポートネットワーク大阪ホームページへの掲載等で行った。

4. 結果

1) DLBカフェについて

実施回数、開催日、参加人数については、表1にまとめた。

当初は、参加者（家族）が1名という形でスタートしたが、実施回数を重ねるにつれ、参加人数を増やすことができた。参加人数が増えたのは、講演会に参加されたことがきっかけでDLBカフェを知ったということが最も大きい要因と考えられた。

DLBカフェに参加していただける方が増え、何度も参加することで「顔馴染み」の関係が構築され、ご家族同士で悩みを共有したり、情報交換したりする場面が多くみられるようになった。

表1 DLBカフェの結果

回数	開催日	参加人数	
		本人	家族
第1回	4/16（土）	0名	1名
第2回	6/18（土）	0名	1名
第3回	7/16（土）	0名	1名
第4回	10/15（土）	1名	4名
第5回	11/19（土）	2名	3名
第6回	12/17（土）	2名	3名
第7回	1/21（土）	2名	6名
第8回	2/18（土）	2名	5名

2) 講演会

実施回数、開催日、参加人数については、表2にまとめた。

講演会は、第1回目の講師を専門家（医師）、第2

回目の講師を当事者、第3回目の講師を専門職（看護師）とし、講演を行った。

レビー小体型認知症の進み方や症状への対応、疾患との“つきあい方”、日常生活の工夫などについて、関心を持って聴いていただけたと感じている。

また、講演会後のレビー小体型認知症の当事者および家族の交流会では、活発な意見交換や質疑が見られ、本プロジェクトの必要性を感じる事ができた。

表2 講演会の結果

回数	開催日	参加人数		
		本人	家族	専門職
1回	5/22（土）	1名	9名	40名
2回	9/17（土）	9名	16名	21名
3回	3/18（土）	5名	11名	30名

5. 今後の展望

レビー小体型認知症に特化し、当事者や家族が情報交換や交流をできる場、専門職が情報や知識を増やせる場は、確保だけでなく、継続することが重要である。

今後も本プロジェクトを継続し、当事者や家族がレビー小体型認知症と上手につきあいながら生活し、その生活を十分にサポートできる専門職が増えることを目指したい。

引用・参考文献

- [1] レビー小体型認知症サポートネットワーク：DLBSN について，<http://dlbsn.org/>，閲覧日2023. 3. 15.
- [2] 青柳寿弥，木谷尚美，米山真理，他：レビー小体型認知症サポートネットワーク富山の研修会における活動報告 - 保健医療福祉にかかわる人と当事者およびその家族の意見から - ，日本認知症ケア学会誌，21 巻，2 号，335-342 (2022)